

「共創のまちづくり」、これからの考えは

町長 安心して暮らせる地域づくりと、広域連携による地域活性化へ



菅原隆男議員

これまでの成果、課題は

問 第5次総合計画の成果と、今後の課題は。

町長 「子育て・教育」「雇用・産業」「地域」「防災」の4つの柱をベースに、事業を展開してきた。高校生までの医療費無料化、紅花を軸にした地域活性化、コミュニティセンターによる活力ある地域づくり、豪雨災害の復旧など、各分野に一定の効果があつたと考えている。

一方、荒砥高校存続

への取り組み、山形鉄道の経営支援、定住環境の整備など、課題も残っている。人口減少のなか、複雑かつ困難な問題でもあると認識している。

これからのまちづくりは

問 「共創のまちづくり」の理念をふまえ、将来に向けたまちづくりの考えを伺う。

町長 引き続き「共創のまちづくり」の理念を継承し、人と人がつながり、安

心して住み続けることができる地域づくりを進める。

また、今後は、関係市町との広域的な連携も必要不可欠である。互いの独自性を尊重し、役割分担しながら、地域活性化に取り組んでいく。

荒砥橋への期待は

問 荒砥橋の改築によって、町も変わるといふ期待もある。改築に伴い、どのようなまちづくりをしていくか。

町長 以前は、最上川を挟んだ複眼都市としてまちづくりを進めてきた。現状を踏まえ、今後は一体的な整備を進めていかなければならない。荒砥橋改築は大きなチャンスであり、白鷹町は一本であるとして取り組んでいく。

木材の活用は

問 緑の循環システムを構築し、積極的に町産材を活用してきた。今後の木材の活用は。

町長 森林環境譲与税は、公共施設等の改築の際の木造化を促進するねらいもあり、山林のない自治体にも交付される。おきたま木材乾燥センターには、日本農林規格を取得していただき、その品質の高い木材が他市町村でも使ってもら

えるよう、積極的に働きかけをしていきたい。

今後の財政運営は

問 今後のまちづくりにおける財政運営の基本的な考え方は。

町長 大規模事業により、起債が増えている。有利な財源を導入し、基金の造成や税収増にも努め、町民ニーズに応えられる持続可能なまちづくりを進めていく。



町一体の発展を

第5次総合計画の検証をしっかりと。